

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5348613号
(P5348613)

(45) 発行日 平成25年11月20日(2013.11.20)

(24) 登録日 平成25年8月30日(2013.8.30)

(51) Int.Cl. F 1
E 0 3 C 1/20 (2006.01)
 E O 3 C 1/20 B
 E O 3 C 1/20 A

請求項の数 2 (全 20 頁)

(21) 出願番号	特願2009-82853 (P2009-82853)	(73) 特許権者	000010087
(22) 出願日	平成21年3月30日(2009.3.30)		TOTO株式会社
(62) 分割の表示	特願2008-297074 (P2008-297074) の分割		福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号
原出願日	平成20年11月20日(2008.11.20)	(72) 発明者	西坂 献太郎
(65) 公開番号	特開2010-121435 (P2010-121435A)		千葉県佐倉市大作2丁目5番地1 T O T
(43) 公開日	平成22年6月3日(2010.6.3)		Oバスクリエイト株式会社内
審査請求日	平成23年11月14日(2011.11.14)	(72) 発明者	三浦 敏幸
			千葉県佐倉市大作2丁目5番地1 T O T
			Oバスクリエイト株式会社内
		(72) 発明者	福岡 伸幸
			千葉県佐倉市大作2丁目5番地1 T O T
			Oバスクリエイト株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 浴室用床パン

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

周縁に設けられ、壁パネルが載置される壁載置部と、

前記壁載置部が切り落とされた際に、前記壁パネルの載置位置の基準となるピース部材を正確な位置に取り付けるために、床パン本体の下面に成形時に形成された位置決め手段と、を備え、

前記ピース部材は、前記ピース部材と前記壁載置部が切り落とされた際に形成される切断面との間に間隙が形成されることにより、切断面に接触しないことを特徴とする浴室用床パン。

【請求項 2】

周縁の少なくとも一側面に切断面が形成された床パン本体と、

前記床パン本体の前記切断面側に取り付けられ、壁パネルの載置位置の基準となるピース部材と、を備え、

前記床パン本体の下面には、前記ピース部材を正確な位置に取り付けるために、前記床パン本体の成形時に形成された位置決め手段が設けられ、

前記ピース部材は、前記ピース部材と前記切断面との間に間隙が存在することにより、前記切断面に接触しないことを特徴とする浴室用床パン。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

20

本発明の態様は、一般的に、浴室用床パンに関し、具体的にはユニットバスに用いられる浴室用床パンに関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献1に記載された洗い場付き浴槽では、洗い場パンの外周に立上片が一体形成されており、この立上片の内周には、壁パネルが建て付けられる壁載置面が形成されている。

【0003】

しかしながら、特許文献1に記載された洗い場付き浴槽では、ユニットバスの大きさに応じて、種々の大きさの洗い場パン（浴室用床パン）を用意しなければならないという問題がある。種々の大きさの浴室用床パンを用意するためには、その種類の数とほとんど同数の型を用意する必要があるため、コストがかかるという問題がある。

【0004】

一方、浴室用床パンの種類を少なくすると、ユニットバスの施工空間の大きさに柔軟に対応することが困難となるおそれがある。つまり、ユニットバスの施工空間に対して余裕があるにもかかわらず、より大きな浴室用床パンを施工空間に入れることができないため、それよりも小さな浴室用床パンを使用しなければならないという問題がある。浴室用床パンは、洗い場の空間が広いと身体などを洗いやすいため、より広い方が好ましい。

【0005】

そこで、浴室用床パンをカットすることで、多種サイズのユニットバスに対応可能とされた浴室用防水床パンがある（特許文献2）。つまり、特許文献2に記載された浴室用防水床パンによれば、浴室用防水床パンをカットすることで、1種類の浴室用防水床パンから多種サイズの浴室用防水床パンを提供することができる。そして、浴室の壁パネルの位置決めをするために、カット後の浴室用防水床パンに位置決め具を取り付けることが開示されている。

【0006】

しかしながら、特許文献2では、カット後の浴室用防水床パンの正確な位置に位置決め具を取り付ける手段や方法は開示されていない。浴室用防水床パンは、一般的に、硬質な材料で形成されており、そのサイズは大きいため、寸法誤差がないように浴室用防水床パンをカットすることは困難である。そのため、浴室用防水床パンのカットした部分を基準として位置決め具を取り付けると、その位置決め具を浴室用防水床パンの正確な位置に取り付けることができないおそれがある。その結果、浴室の壁パネルを正確な位置に取り付けることができないおそれがある。浴室の壁パネルを正確な位置に取り付けることができないと、ユニットバス自体が歪んだり、隙間が発生して気密性や水密性が低下するため好ましくない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献1】特開2005-27861号公報

【特許文献2】特開平11-29967号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

本発明の態様は、かかる課題の認識に基づいてなされたものであり、多種サイズのユニットバスに対応することができ、浴室用床パンをカットした際に形成される切断面の寸法誤差の影響を受けることなく、壁パネルを正確な位置に配置することができる浴室用床パンを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明の一態様によれば、周縁に設けられ、壁パネルが載置される壁載置部と、前記壁

10

20

30

40

50

載置部が切り落とされた際に、前記壁パネルの載置位置の基準となるピース部材を正確な位置に取り付けるために、床パン本体の下面に成形時に形成された位置決め手段と、を備え、前記ピース部材は、前記ピース部材と前記壁載置部が切り落とされた際に形成される切断面との間に間隙が形成されることにより、切断面に接触しないことを特徴とする浴室用床パンが提供される。

【 0 0 1 0 】

または、本発明の一態様によれば、周縁の少なくとも一側面に切断面が形成された床パン本体と、前記床パン本体の前記切断面側に取り付けられ、壁パネルの載置位置の基準となるピース部材と、を備え、前記床パン本体の下面には、前記ピース部材を正確な位置に取り付けるために、前記床パン本体の成形時に形成された位置決め手段が設けられ、前記ピース部材は、前記ピース部材と前記切断面との間に間隙が存在することにより、前記切断面に接触しないことを特徴とする浴室用床パンが提供される。

10

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明の態様によれば、多種サイズのユニットバスに対応することができ、浴室用床パンをカットした際に形成される切断面の寸法誤差の影響を受けることなく、壁パネルを正確な位置に配置することができる浴室用床パンが提供される。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】本発明の第 1 の実施の形態にかかる浴室用床パンが設置された浴室を例示する斜視模式図である。

20

【図 2】本実施形態にかかる浴室用床パンの断面を表す断面模式図であり、図 1 に表した A - A 断面図に相当する。

【図 3】切断前の浴室用床パンを表す模式図である。

【図 4】切断後の浴室用床パンを表す模式図である。

【図 5】ピース部材が取り付けられた浴室用床パンを表す模式図である。

【図 6】ピース部材と浴室用床パンとの位置決め部を拡大して眺めた断面模式図である。

【図 7】他のピース部材が取り付けられた浴室用床パンを表す斜視模式図である。

【図 8】ピース部材同士の接合部を拡大して眺めた斜視模式図である。

【図 9】ピース部材同士の接合部に補強部材が取り付けられた状態を例示する斜視模式図である。

30

【図 10】補強部材を拡大して眺めた斜視模式図である。

【図 11】補強部材の断面を表す断面模式図であり、図 9 に表した G - G 断面図に相当する。

【図 12】支持部材を拡大して眺めた斜視模式図である。

【図 13】支持部材の断面を表す断面模式図であり、図 9 に表した H - H 断面図に相当する。

【図 14】変形例のピース部材が取り付けられた浴室用床パンを表す断面模式図である。

【図 15】本発明の第 2 の実施の形態にかかる浴室用床パンが設置された浴室を例示する斜視模式図である。

40

【図 16】本実施形態の浴室用床パンおよび床パンの断面を表す断面模式図であり、図 15 に表した J - J 断面図に相当する。

【図 17】本実施形態の洗い場蓋を下面から眺めた平面模式図である。

【図 18】切断後の浴室用床パンおよび洗い場蓋を表す断面模式図である。

【図 19】嵌合部材が取り付けられた洗い場蓋を下面から眺めた平面模式図である。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 3 】

第 1 の発明は、周縁に設けられ、壁パネルが載置される壁載置部と、前記壁載置部が切り落とされた際に、前記壁パネルの載置位置の基準となるピース部材を正確な位置に取り付けるために、床パン本体の下面に成形時に形成された位置決め手段と、を備え、前記ピ

50

ース部材は、前記ピース部材と前記壁載置部が切り落とされた際に形成される切断面との間に間隙が形成されることにより、切断面に接触しないことを特徴とする浴室用床パンである。

この浴室用床パンによれば、浴室用床パンを切断することにより壁載置部が切り落とされた後であっても、壁載置部の代替として機能するピース部材を、成形時に予め形成された位置決め手段を基準として、切断面に対応した正確な位置に取り付けることができ、さらに、ピース部材は、切断面に接触していないため、ピース部材は、切断面の寸法誤差に影響を受けることなく、浴室用床パンに対して正確な位置に取り付けられる。従って、多種サイズのユニットバスに対応することができ、浴室用床パンをカットした際に形成される切断面の寸法誤差の影響を受けることなく、壁パネルを正確な位置に配置することができる。

10

【 0 0 1 4 】

また、第2の発明は、周縁の少なくとも一側面に切断面が形成された床パン本体と、前記床パン本体の前記切断面側に取り付けられ、壁パネルの載置位置の基準となるピース部材と、を備え、前記床パン本体の下面には、前記ピース部材を正確な位置に取り付けるために、前記床パン本体の成形時に形成された位置決め手段が設けられ、前記ピース部材は、前記ピース部材と前記切断面との間に間隙が存在することにより、前記切断面に接触しないことを特徴とする浴室用床パンである。

この浴室用床パンによれば、浴室用床パンを切断することにより壁載置部が切り落とされた後であっても、壁載置部の代替として機能するピース部材を、成形時に予め形成された位置決め手段を基準として、切断面に対応した正確な位置に取り付けることができ、さらに、ピース部材は、切断面に接触していないため、ピース部材は、切断面の寸法誤差に影響を受けることなく、浴室用床パンに対して正確な位置に取り付けられる。従って、多種サイズのユニットバスに対応することができ、浴室用床パンをカットした際に形成される切断面の寸法誤差の影響を受けることなく、壁パネルを正確な位置に配置することができる。

20

【 0 0 1 5 】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照しつつ説明する。なお、各図面中、同様の構成要素には同一の符号を付して詳細な説明は適宜省略する。

30

図1は、本発明の第1の実施の形態にかかる浴室用床パンが設置された浴室を例示する斜視模式図である。

また、図2は、本実施形態にかかる浴室用床パンの断面を表す断面模式図であり、図1に表したA - A断面図に相当する。

【 0 0 1 6 】

本実施形態にかかる浴室用床パン100が設置された浴室(ユニットバス)は、図1に表したように、浴室用床パン100と、浴槽200と、エプロン300と、壁パネル10a、10b、10c、10dと、を備える。なお、壁パネル10a、10b、10dのいずれかには、図示しないドアが設けられている。また、壁パネル10a、10b、10dの少なくともいずれかには、図示しない窓がさらに設けられていてもよい。

40

【 0 0 1 7 】

浴室用床パン100は、図2に表したように、その下部に支持脚190を有し、建物床20eの上に載置されている。また、浴室用床パン100は、浴槽載置部110を有している。浴槽200は、その浴槽載置部110に載置され、浴室用床パン100に適宜固定されている。そして、浴槽200の側面を覆い隠すように、エプロン300が浴室用床パン100と浴槽200との間に設けられている。

【 0 0 1 8 】

浴室用床パン100は、浴槽載置部110に隣接するように、洗い場120を有している。そして、浴室用床パン100の周縁には、図2に表したように、壁パネル10a、10b、10c、10dを載置する壁載置部121が設けられている。壁載置部121は、

50

外周端において、上方に突出した側壁部 121a を有している。そして、壁パネル 10a、10b、10c、10d は、壁載置部 121 の側壁部 121a に当接され、且つ壁載置部 121 の底部 121b に載置されることにより、浴室用床パン 100 に対する位置が決められる。つまり、壁載置部 121 は、壁パネル 10a、10b、10c、10d をガイドするための位置決め部として機能する。なお、側壁部 121a は、壁載置部 121 と壁パネル 10a、10b、10c、10d との間の隙間からの漏水（湯も含む）を防止する「水返し」としても機能する。

【0019】

壁パネル 10a の外側には、建物壁 20a が存在する。これと同様に、壁パネル 10b、10c、10d の外側には、図示しない建物壁がそれぞれ存在する。つまり、ユニットバスは、建物床 20e や建物壁 20a などにより画設された施工空間の中に設けられている。そのため、浴室用床パン 100 は、ユニットバスの施工空間の中に入るような大きさを有する必要がある。言い換えれば、ユニットバスの施工空間に入れることができないほど大きい浴室用床パン 100 を使用することはできない。

10

【0020】

浴室（ユニットバス）の施工空間の大きさは、家屋によりさまざまである。そのため、ユニットバスの施工空間の大きさに柔軟に対応するためには、種々の大きさの浴室用床パン 100 を用意しなければならない。しかしながら、種々の大きさの浴室用床パン 100 を用意するためには、その種類の数とほとんど同数の型を用意する必要がある。そうすると、浴室用床パン 100 の製造コストがかかり、多くの種類の型を管理することも容易ではない。

20

【0021】

一方、浴室用床パン 100 の種類を少なくすると、ユニットバスの施工空間の大きさに柔軟に対応することが困難となる。つまり、壁パネル 10a や浴室用床パン 100 と建物壁 20a との間の空間が広く空いている場合に、それよりも大きい浴室用床パン 100 を使用すると、ユニットバスの施工空間に浴室用床パン 100 を入れることができない場合がある。そのため、壁パネル 10a や浴室用床パン 100 と建物壁 20a との間の空間が広く空いているにもかかわらず、より小さな浴室用床パン 100 を使用せざるを得ない場合がある。浴室（ユニットバス）や洗い場 120 などは、その空間が広いと身体などを洗いやすいため便利である。

30

【0022】

そこで、本実施形態では、浴室用床パン 100 を切断することにより、多種サイズのユニットバスに対応することができる。つまり、ユニットバスの施工空間に大きさに応じて浴室用床パン 100 を切断することにより、その施工空間の大きさにより適した浴室用床パン 100 を提供することができる。これによれば、ユニットバスの施工空間に大きさに応じて、より広い洗い場 120 などを有するユニットバスを提供することができる。また、浴室用床パン 100 の型の種類を減らすことができるため、製造コストを抑えることもできる。

【0023】

ここで、浴室用床パン 100 を切断すると、壁パネル 10a、10b、10c、10d の位置決め部として機能する壁載置部 121 が切り落とされてしまう。そのため、壁パネル 10a、10b、10c、10d の少なくともいずれかを浴室用床パン 100 に対して正確な位置に設置できないおそれがある。壁パネル 10a、10b、10c、10d の少なくともいずれかを浴室用床パン 100 に対して正確な位置に設置できないと、壁パネル 10a、10b、10c、10d が建物壁 20a などに接触したり、ユニットバス自体が歪んだり、隙間が発生して気密性や水密性を低下させるおそれがあるため好ましくない。

40

【0024】

これに対して、本実施形態では、浴室用床パン 100 を切断することにより壁載置部 121 が切り落とされた後であっても、壁載置部 121 の代替として機能するピース部材 141（図 5 参照）を浴室用床パン 100 に取り付けることができる。このピース部材 14

50

1については、後に詳述する。さらに、浴室用床パン100には、図2に表したように、ピース部材141を正確な位置に取り付けるための位置決め部（位置決め手段）123が設けられている。その結果、本実施形態では、浴室用床パン100を切断することにより壁載置部121が切り落とされた後であっても、壁パネル10a、10b、10c、10dを浴室用床パン100に対して正確な位置に設置することができる。以下、さらに詳細な説明について、図面を参照しつつ説明する。

【0025】

図3は、切断前の浴室用床パンを表す模式図である。

なお、図3(a)は、切断前の浴室用床パンの角部を表す斜視模式図であり、図1に表した領域Bに相当する。また、図3(b)は、切断前の浴室用床パンの断面を表す断面模式図であり、図3(a)に表したC-C断面図に相当する。

10

【0026】

浴室用床パン100の周縁には、図1および図2に関して前述したように、壁パネル10a、10b、10c、10dを載置する壁載置部121が設けられている。この壁載置部121は、側壁部121aと底部121bとを有している。壁パネル10a、10b、10c、10dは、壁載置部121の側壁部121aに当接され、且つ壁載置部121の底部121bに載置されることにより、浴室用床パン100に対する位置が決められる。つまり、浴室用床パン100を切断する前の状態では、壁載置部121が設けられているため、壁パネル10a、10b、10c、10dを浴室用床パン100に対して正確な位置に設置することができる。

20

【0027】

浴室用床パン100の洗い場120には、壁載置部121と略並行して位置決め部（位置決め手段）123と接着溜まり部125とが設けられている。位置決め部123と接着溜まり部125とは、図3(b)に表したように、凹形状に形成された溝部であり、互いに近接して設けられている。つまり、1つの位置決め部123と、1つの接着溜まり部125と、は近接した状態で1組の溝部127を形成している。1組の溝部127の内において、位置決め部123は浴室用床パン100の外側（周縁側）に設けられており、接着溜まり部125は浴室用床パン100の内側に設けられている。

【0028】

そして、図3(b)に表したように、所定間隔をおいて、さらに他の1組の溝部127が形成されている。1組の溝部127と、他の1組の溝部127と、の間の距離は、例えば約50ミリメートル程度である。また、洗い場120の下面には、浴室用床パン100を補強する垂下形成された補強部（リブ）129が適宜設けられている。この補強部129は、1組の溝部127の近傍に設けられている。

30

【0029】

ここで、図1および図2に関して前述したように、ユニットバスの施工空間に大きさに応じて浴室用床パン100を切断すると、壁パネル10a、10b、10c、10dの位置決め部として機能する壁載置部121が切り落とされてしまう。以下、図3(a)に表した切断面Dおよび切断面Eにおいて、浴室用床パン100を切断した場合を例に挙げて説明する。

40

【0030】

図4は、切断後の浴室用床パンを表す模式図である。

また、図5は、ピース部材が取り付けられた浴室用床パンを表す模式図である。

また、図6は、ピース部材と浴室用床パンとの位置決め部を拡大して眺めた断面模式図である。

なお、図4(a)および図5(a)は、浴室用床パンの角部を表す斜視模式図であり、図3(a)に表した浴室用床パンに対応する。また、図4(b)および図5(b)は、浴室用床パンの断面模式図であり、図3(a)に表したC-C断面図に相当する。

【0031】

浴室用床パン100が切断面Dにおいて切断されると、図4(a)に表したように、壁

50

載置部 1 2 1 とともに 1 組の溝部 1 2 7 が切り落とされる。また、これと同様に、浴室用床パン 1 0 0 が切断面 E において切断されると、図 4 (a) に表したように、壁載置部 1 2 1 が切り落とされる。そのため、この状態のままでは、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d の少なくともいずれかを浴室用床パン 1 0 0 に対して正確な位置に設置できない。

【 0 0 3 2 】

そこで、本実施形態では、図 5 に表したように、壁載置部 1 2 1 の代替として機能するピース部材 1 4 1 を浴室用床パン 1 0 0 に取り付けることができる。なお、説明の便宜上、切断後であってピース部材 1 4 1 を取り付ける前の状態の浴室用床パン 1 0 0 を「床パン本体」ともいう。つまり、切断後において、ピース部材 1 4 1 が取り付けられた浴室用床パン 1 0 0 は、床パン本体と、ピース部材 1 4 1 と、を備える。ここで、浴室用床パン 1 0 0 は、一般的に、F R P (Fiber Reinforced Plastic) 等の熱硬化性樹脂、あるいはポリプロピレン、ポリエチレン等の熱可塑性樹脂に補強を施した硬質な材料で形成されており、そのサイズは大きい。そのため、寸法誤差がないように浴室用床パン 1 0 0 を切断することは困難であり、またその切断面 D および切断面 E の表面は粗い。そのため、切断面 D および切断面 E を基準としてピース部材 1 4 1 を取り付けると、浴室用床パン 1 0 0 に対して正確な位置にピース部材 1 4 1 を取り付けることができないおそれがある。

【 0 0 3 3 】

これに対して、本実施形態のピース部材 1 4 1 は、図 6 に表したように、浴室用床パン 1 0 0 との当接面に突起部 1 4 1 c を有する。そして、浴室用床パン (床パン本体) 1 0 0 の位置決め部 1 2 3 にピース部材 1 4 1 の突起部 1 4 1 c を嵌合させることにより、浴室用床パン (床パン本体) 1 0 0 に対して正確な位置にピース部材 1 4 1 を取り付けることができる。つまり、位置決め部 1 2 3 は、切断面 (ここでは切断面 D) に対応した位置に成形時に予め形成されており、その位置決め部 1 2 3 に突起部 1 4 1 c を嵌合させる、すなわち位置決め部 1 2 3 を基準としてピース部材 1 4 1 を取り付けることにより、切断面 (ここでは切断面 D) に対応した正確な位置にピース部材 1 4 1 を取り付けることができる。

【 0 0 3 4 】

位置決め部 1 2 3 は、浴室用床パン 1 0 0 の洗い場 1 2 0 の表面に設けられている。そのため、位置決め部 1 2 3 の位置は、切断面 D および切断面 E の寸法誤差や表面状態などに影響を受けることはない。したがって、切断面 D および切断面 E の寸法誤差や表面状態などに影響を受けることなく、浴室用床パン 1 0 0 に対して正確な位置にピース部材 1 4 1 を取り付けることができる。

【 0 0 3 5 】

ピース部材 1 4 1 を浴室用床パン 1 0 0 に取り付ける前において、位置決め部 1 2 3 および接着溜まり部 1 2 5 には、図 6 に表したように、例えばシリコンなどの止水性を有する接着剤 1 7 5 が予め塗布されている。そのため、この状態から位置決め部 1 2 3 に突起部 1 4 1 c を嵌合させることにより、浴室用床パン 1 0 0 に対して正確な位置にピース部材 1 4 1 を取り付けつつ、ピース部材 1 4 1 を浴室用床パン 1 0 0 に接着することができる。

【 0 0 3 6 】

さらに、図 5 (a) に表したように、ピース部材 1 4 1 の底部 1 4 1 b において、ねじが入り込むための図示しないざぐり部が形成されており、そのピース部材 1 4 1 のざぐり部から浴室用床パン 1 0 0 へ向かって、例えばねじなどの固定部材 1 7 3 が取り付けられている。そのため、ピース部材 1 4 1 は、接着剤 1 7 5 による接着と、固定部材 1 7 3 による締結と、により浴室用床パン 1 0 0 に固定されている。

【 0 0 3 7 】

また、ピース部材 1 4 1 は、壁載置部 1 2 1 と同様に、側壁部 1 4 1 a と底部 1 4 1 b とをさらに有している。そのため、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d は、ピース部材 1 4 1 の側壁部 1 4 1 a に当接され、且つピース部材 1 4 1 の底部 1 4 1 b に載置さ

10

20

30

40

50

れることにより、浴室用床パン 100 に対する位置が決められる。このとき、ピース部材 141 は、切断面（ここでは切断面 D）に対応した正確な位置に取り付けられている。その結果、壁パネル 10a、10b、10c、10d を浴室用床パン 100 に対して正確な位置に設置することができる。

【0038】

なお、切断後の浴室用床パン 100 の補強部 129 には、浴室用床パン 100 を補強する補強部材 171 が適宜設けられていてもよい。補強部材 171 は、例えばねじなどの固定部材 173 により固定されている。補強部材 171 を取り付けることにより、浴室用床パン 100 を切断したことで生じる反りを矯正することが可能となる。また、側壁部 141a は、図 2 に表した側壁部 121a と同様に、壁載置部 141 と壁パネル 10a、10b、10c、10d との間の隙間からの漏水を防止する「水返し」としても機能する。

10

【0039】

図 7 は、他のピース部材が取り付けられた浴室用床パンを表す斜視模式図である。

また、図 8 は、ピース部材同士の接合部を拡大して眺めた斜視模式図である。

なお、図 8 は、図 7 に表した矢視 F の方向に眺めた斜視模式図に相当する。

【0040】

切断面 D に対応した正確な位置にピース部材 141 を取り付ける場合と同様にして、切断面 E についても、切断面 E に対応した正確な位置にピース部材 141 を取り付けることができる。つまり、位置決め部 123 は、切断面（ここでは切断面 E）に対応した位置に予め形成されている。そのため、その位置決め部 123 に突起部 141c を嵌合させることにより、切断面（ここでは切断面 E）に対応した正確な位置にピース部材 141 を取り付けることができる。

20

【0041】

また、切断面 D に対応した位置に取り付けられたピース部材 141 と同様に、切断面 E に対応した位置に取り付けられたピース部材 141 は、接着剤 175 による接着と、固定部材 173 による締結と、により浴室用床パン 100 に固定されている。さらに、切断面 D および切断面 E に対応した位置に取り付けられたそれぞれのピース部材 141 は、図 8 に表したように、止水性を有する接着剤 175（例えばシリコン）により互いに接着されている。そして、切断面 D および切断面 E の外側から、浴室用床パン 100 とピース部材 141 との間に接着剤 175 が塗布されている。これにより、ピース部材 141 同士が液密に結合され、それぞれのピース部材 141 は浴室用床パン 100 により強固に接着されている。

30

【0042】

このようにして、それぞれの切断面に対応した正確な位置にピース部材 141 がそれぞれ取り付けられる。その結果、壁パネル 10a、10b、10c、10d を浴室用床パン 100 に対して正確な位置に設置することができる。つまり、浴室用床パン 100 を切断することにより壁載置部 121 が切り落とされた後であっても、ピース部材 141 を切断面に対応した位置に取り付けることにより、壁パネル 10a、10b、10c、10d を浴室用床パン 100 に対して正確な位置に設置することができる。これによれば、浴室用床パン 100 を切断することにより、多種サイズのユニットバスに対応することができ、壁パネル 10a、10b、10c、10d を浴室用床パン 100 に対して正確な位置に設置することができる。

40

【0043】

なお、図 3 に表したように、位置決め部 123 同士が交差している場合には、その位置決め部 123 は凹形状を有することが好ましい。これは、位置決め部 123 同士が交差している場合に、その位置決め部 123 が凸形状を有すると、ピース部材 141 が位置決め部 123 同士の交差部と干渉して、取り付けられない場合があるためである。つまり、例えば、位置決め部 123 が凸形状を有すると、図 4 に表した領域 N における位置決め部 123 同士の交差部と、ピース部材 141 と、が干渉して、ピース部材 141 を取り付けることができない場合があるためである。

50

【 0 0 4 4 】

図 9 は、ピース部材同士の接合部に補強部材が取り付けられた状態を例示する斜視模式図である。

図 3 ~ 図 8 に関して前述したように、本実施形態では、浴室用床パン 1 0 0 を切断することにより、多種サイズのユニットバスに対応することができる。ここで、浴室用床パン 1 0 0 は、一般的に、硬質な材料で形成されているため、ユニットバスの施工現場において浴室用床パン 1 0 0 を切断することは容易ではない。そのため、浴室用床パン 1 0 0 の切断や接着剤 1 7 5 の塗布などは、例えば工場などにおいて行われる。

【 0 0 4 5 】

そのため、例えば工場などから施工現場へ浴室用床パン 1 0 0 を運搬するときや、ユニットバスの施工時に、ピース部材 1 4 1 同士の接合部（図 8 参照）が物体などに接触すると、例えばシリコンなどの接着剤 1 7 5 が切れたり、剥がれるおそれがある。そこで、本実施形態では、ピース部材 1 4 1 同士の接合部に、補強部材 1 7 8 が設けられている。

【 0 0 4 6 】

補強部材 1 7 8 は、例えば金属などから形成されており、ピース部材 1 4 1 同士の接合部を覆うように設けられている。そのため、補強部材 1 7 8 に物体などが接触した場合であっても、接着剤 1 7 5 が切れたり、剥がれるおそれは少ない。

【 0 0 4 7 】

また、それぞれのピース部材 1 4 1 の中間部には、図 9 に表したように、1 つあるいは複数の支持部材 1 7 9 が設けられている。この支持部材 1 7 9 には、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d を支持したり、補強するための図示しない支柱が取り付けられる。支持部材 1 7 9 は、施工現場において取り付けられてもよいし、工場などにおいて取り付けられてもよい。なお、補強部材 1 7 8 は、支持部材 1 7 9 と同様に、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d を支持したり、補強する支柱を取り付ける機能も有する。

【 0 0 4 8 】

図 1 0 は、補強部材を拡大して眺めた斜視模式図である。

また、図 1 1 は、補強部材の断面を表す断面模式図であり、図 9 に表した G - G 断面図に相当する。

なお、図 1 0 (a) は、補強部材を浴室用床パンの内側から眺めた斜視模式図であり、図 1 0 (b) は、補強部材を浴室用床パンの外側から眺めた斜視模式図である。

【 0 0 4 9 】

補強部材 1 7 8 は、図 1 0 (b) および図 1 1 に表したように、ピース部材 1 4 1 の外側において、固定部材 1 7 3 により固定されている。そして、図 1 0 (a) および図 1 1 に表したように、補強部材 1 7 8 の上部において、固定部材 1 7 3 を締めつけることによりピース部材 1 4 1 の側壁部 1 4 1 a を挟み込むようにして、補強部材 1 7 8 は側壁部 1 4 1 a にも固定されている。

【 0 0 5 0 】

その結果、隣接するピース部材 1 4 1 は、補強部材 1 7 8 を介してより強固に結合される。これによれば、隣接するピース部材 1 4 1 同士の接合部近傍が物体などに接触した場合であっても、その隣接するピース部材 1 4 1 同士の相対位置はほとんど変化しないため、接着剤 1 7 5 が切れたり、剥がれるおそれは少ない。

【 0 0 5 1 】

また、補強部材 1 7 8 は、隣接するピース部材 1 4 1 同士の接合部を覆うようにして取り付けられているため、物体がその接合部に直接接触することはない。つまり、補強部材 1 7 8 は、カバーとしての機能も有する。そのため、隣接するピース部材 1 4 1 同士の接合部近傍が物体などに接触した場合であっても、接着剤 1 7 5 が切れたり、剥がれるおそれは少ない。

【 0 0 5 2 】

図 1 2 は、支持部材を拡大して眺めた斜視模式図である。

また、図 1 3 は、支持部材の断面を表す断面模式図であり、図 9 に表した H - H 断面図

10

20

30

40

50

に相当する。

なお、図 1 2 (a) は、支持部材を浴室用床パンの内側から眺めた斜視模式図であり、図 1 2 (b) は、支持部材を浴室用床パンの外側から眺めた斜視模式図である。また、図 1 3 においては、説明の便宜上、補強部材 1 7 8 などを適宜省略している。

【 0 0 5 3 】

支持部材 1 7 9 は、図 1 3 に表したように、ピース部材 1 4 1 の内側に取り付けられる第 1 の支持部材 1 7 9 a と、ピース部材 1 4 1 の外側に取り付けられる第 2 の支持部材 1 7 9 b と、を有する。第 1 の支持部材 1 7 9 a の下部には、図 1 2 (a) に表したように、爪部 1 7 9 c が設けられている。そして、第 1 の支持部材 1 7 9 a は、その爪部 1 7 9 c が側壁部 1 4 1 a に引っ掛けられた状態で、ピース部材 1 4 1 に取り付けられている。

10

【 0 0 5 4 】

また、第 2 の支持部材 1 7 9 b の下部には、図 1 3 に表したように、爪部 1 7 9 d が設けられている。一方、ピース部材 1 4 1 の外側には、図 1 3 に表したように、凹部 1 4 1 d が設けられている。そして、第 2 の支持部材 1 7 9 b は、その爪部 1 7 9 d が凹部 1 4 1 d に引っ掛けられた状態で、ピース部材 1 4 1 に取り付けられている。

【 0 0 5 5 】

続いて、この状態から、固定部材 1 7 3 を締めつけることにより、第 1 の支持部材 1 7 9 a と、第 2 の支持部材 1 7 9 b と、で側壁部 1 4 1 a を挟み込むようにして、支持部材 1 7 9 はピース部材 1 4 1 に固定される。これによれば、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d を支持したり、補強するための支柱を支持部材 1 7 9 に取り付けることができる。

20

【 0 0 5 6 】

図 1 4 は、変形例のピース部材が取り付けられた浴室用床パンを表す断面模式図である。

なお、図 1 4 は、図 3 (a) に表した C - C 断面図に相当する。

【 0 0 5 7 】

本変形例のピース部材 1 5 1 は、図 6 に表したようには、突起部を有していない。一方、浴室用床パン 1 0 0 の洗い場 1 2 0 にも、位置決め部 1 2 3 および接着溜まり部 1 2 5 は設けられていない。そのため、本変形例では、ピース部材 1 5 1 は、洗い場 1 2 0 の表面では位置決めされない。ピース部材 1 5 1 は、図 1 4 に表したように、下方に垂下形成された補強部 (位置決め手段) 1 2 9 に当接されることにより、浴室用床パン (床パン本体) 1 0 0 に対して正確な位置に取り付けられる。

30

【 0 0 5 8 】

つまり、補強部 1 2 9 は、切断面 (ここでは切断面 D) に対応した位置に成形時に予め形成されており、その補強部 1 2 9 にピース部材 1 5 1 を当接させる、すなわち補強部 1 2 を基準としてピース部材 1 5 1 を取り付けることにより、切断面 (ここでは切断面 D) に対応した正確な位置にピース部材 1 5 1 を取り付けることができる。そして、固定部材 1 7 3 を締め付けることにより、ピース部材 1 5 1 を補強部 1 2 9 に固定することができる。

【 0 0 5 9 】

40

このとき、切断面 D とピース部材 1 5 1 との間には、間隙 I が存在する。つまり、ピース部材 1 5 1 は、切断面 D には接触していない (クリアランスが形成されている) 。そのため、ピース部材 1 5 1 は、切断面 D の寸法誤差や表面状態などに影響を受けることなく、浴室用床パン 1 0 0 に対して正確な位置に取り付けられる。

【 0 0 6 0 】

また、ピース部材 1 5 1 は、壁載置部 1 2 1 と同様に、側壁部 1 5 1 a と底部 1 5 1 b とを有している。そのため、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d は、ピース部材 1 5 1 の側壁部 1 5 1 a に当接され、且つピース部材 1 4 1 の底部 1 5 1 b に載置されることにより、浴室用床パン 1 0 0 に対する位置が決められる。このとき、ピース部材 1 5 1 は、切断面 (ここでは切断面 D) に対応した正確な位置に取り付けられている。その結果

50

、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄを浴室用床パン１００に対して正確な位置に設置することができる。

【００６１】

さらに、前述したように、浴室用床パン１００の洗い場１２０には、位置決め部１２３および接着溜まり部１２５は設けられていない。そのため、浴室用床パン１００を切断せずに設置する場合であっても、位置決め部１２３や接着溜まり部１２５が洗い場１２０の表面に存在することはない。これによれば、不要となった位置決め部１２３や接着溜まり部１２５が洗い場１２０に存在しないため、汚れが溜まり難く、見栄えがより良い浴室用床パン１００を提供することができる。また、間隙Ｉには、例えばシリコンなどの接着剤１７５が適宜充填され、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｄと浴室用床パン１００とは液密に接着されている。

10

【００６２】

以上説明したように、本実施形態によれば、浴室用床パン１００の切断面に対応した位置に位置決め部１２３が予め形成されている。一方、壁載置部１２１の代替として機能するピース部材１４１は、浴室用床パン１００との当接面に突起部１４１ｃを有する。そして、位置決め部１２３に突起部１４１ｃを嵌合させる、すなわち位置決め部１２３を基準としてピース部材１４１を取り付けることにより、切断面に対応した正確な位置にピース部材１４１を取り付けることができる。そのため、浴室用床パン１００を切断した後であっても、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄを浴室用床パン１００に対して正確な位置に設置することができる。これによれば、浴室用床パン１００を切断することにより、多種サイズのユニットバスに対応することができ、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄを浴室用床パン１００に対して正確な位置に設置することができる。なお、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄの位置については、ピース部材１４１を基準として、支柱を介して決めることも可能である。

20

【００６３】

次に、本発明の第２の実施の形態について、図面を参照しつつ説明する。

図１５は、本発明の第２の実施の形態にかかる浴室用床パンが設置された浴室を例示する斜視模式図である。

また、図１６は、本実施形態の浴室用床パンおよび床パンの断面を表す断面模式図であり、図１５に表したＪ－Ｊ断面図に相当する。

30

また、図１７は、本実施形態の洗い場蓋を下面から眺めた平面模式図である。

【００６４】

本実施形態にかかる浴室用床パン５００が設置された浴室（ユニットバス）は、図１５に表したように、浴室用床パン５００と、浴槽２００と、エプロン３００と、洗い場蓋６００と、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄと、を備える。

【００６５】

浴室用床パン５００は、図１５に表したように、開口部５２０を有する。これによれば、作業者などが浴室用床パン５００をユニットバスの施工空間に設置する際に、その開口部５２０から手など挿入することにより、支持脚１９０の高さ調整や、配管の接続などを容易に行うことができる。また、図１６に表したように、浴室用床パン５００の周縁には、図２に表した浴室用床パン１００と同様に、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄを載置する壁載置部５２１が設けられている。この壁載置部５２１は、壁パネル１０ａ、１０ｂ、１０ｃ、１０ｄの位置決め部として機能し、その下部には凹部５２１ｄが設けられている。

40

【００６６】

浴室用床パン５００は開口部５２０を有するため、この状態のままでは洗い場が存在しない。そこで、本実施形態では、開口部５２０を上から覆うように、洗い場６２０を有する洗い場蓋６００が設置されている。洗い場蓋６００は、図１６および図１７に表したように、浴槽２００とは反対側の端部に爪部６２１を有する。

【００６７】

50

爪部 6 2 1 は、図 1 5 に表した矢印 K のようにして、壁載置部 5 2 1 の下部に設けられた凹部 5 2 1 d に嵌合される。これにより、浴槽 2 0 0 とは反対側の洗い場蓋 6 0 0 の端部は、浴室用床パン 5 0 0 に固定される。一方、浴槽 2 0 0 側の洗い場蓋 6 0 0 の端部は、図 1 5 に表したように、エプロン 3 0 0 の裏側で固定部材 1 7 3 により浴室用床パン 5 0 0 に固定される。このようにして、洗い場蓋 6 0 0 は、全体として浴室用床パン 5 0 0 に固定される。なお、その他の構造については、図 1 および図 2 に表した浴室の構造と同様である。

【 0 0 6 8 】

ここで、多種サイズのユニットバスに対応するために浴室用床パン 5 0 0 および洗い場蓋 6 0 0 を切断すると、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d の位置決め部として機能する壁載置部 5 2 1 と、洗い場蓋 6 0 0 を浴室用床パン 5 0 0 に固定する爪部 6 2 1 と、がそれぞれ切り落とされてしまう。そうすると、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d の少なくともいずれかを浴室用床パン 5 0 0 に対して正確な位置に設置できないおそれがあり、さらに、洗い場蓋 6 0 0 を浴室用床パン 5 0 0 に固定することができない。

【 0 0 6 9 】

そこで、本実施形態では、洗い場蓋 6 0 0 を切断することにより爪部 6 2 1 が切り落とされた後であっても、爪部 6 2 1 の代替として機能する嵌合部材 6 3 1 (図 1 8 および図 1 9 参照) を洗い場蓋 6 0 0 に取り付けることができる。このとき、洗い場蓋 6 0 0 には、図 1 7 に表したように、嵌合部材 6 3 1 を正確な位置に取り付けるための取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 が成形時に予め形成されている。そして、そのリブ 6 2 9 を基準として嵌合部材 6 3 1 を洗い場蓋 6 0 0 に取り付けることにより、切断面に対応した正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができる。なお、リブ 6 2 9 は、洗い場蓋 6 0 0 を補強する補強部としての機能も有する。

【 0 0 7 0 】

さらに、図 1 ~ 図 1 5 に関して説明した浴室用床パン 1 0 0 と同様に、浴室用床パン 5 0 0 には、ピース部材 1 6 1 を正確な位置に取り付けるための位置決め部 (位置決め手段) 5 2 3 が設けられている。以下、さらに詳細な説明について、図面を参照しつつ説明する。

【 0 0 7 1 】

図 1 8 は、切断後の浴室用床パンおよび洗い場蓋を表す断面模式図である。

また、図 1 9 は、嵌合部材が取り付けられた洗い場蓋を下面から眺めた平面模式図である。

なお、図 1 8 は、図 1 5 に表した J - J 断面図に相当する。

【 0 0 7 2 】

例えば、ユニットバスの施工空間に大きさに応じて、洗い場蓋 6 0 0 を切断面 L (図 1 6 参照) において切断し、浴室用床パン 5 0 0 を切断面 M (図 1 6 参照) において切断した場合を例に挙げて説明する。

洗い場蓋 6 0 0 が切断面 L において切断されると、浴室用床パン 5 0 0 に嵌合させる爪部 6 2 1 が切り落とされる。また、これと同様に、浴室用床パン 5 0 0 が切断面 M において切断されると、壁載置部 5 2 1 が切り落とされる。そのため、この状態のままでは、洗い場蓋 6 0 0 を浴室用床パン 5 0 0 に固定することができず、且つ壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d の少なくともいずれかを浴室用床パン 5 0 0 に対して正確な位置に設置できない。

【 0 0 7 3 】

そこで、本実施形態では、図 1 8 および図 1 9 に表したように、爪部 6 2 1 の代替として機能する嵌合部材 6 3 1 を洗い場蓋 6 0 0 に取り付けることができる。ここで、洗い場蓋 6 0 0 は、一般的に、硬質な材料で形成されており、そのサイズは大きい。そのため、寸法誤差がないように洗い場蓋 6 0 0 を切断することは困難であり、またその切断面 L の表面は粗い。そのため、切断面 L を基準として嵌合部材 6 3 1 を取り付けると、洗い場蓋 6 0 0 に対して正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができないおそれがある。

洗い場蓋 6 0 0 に対して正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができないと、洗い場蓋 6 0 0 を浴室用床パン 5 0 0 に固定できないおそれがある。

【 0 0 7 4 】

これに対して、本実施形態の洗い場蓋 6 0 0 は、図 1 7 および図 1 8 に表したように、嵌合部材 6 3 1 を正確な位置に取り付けるための取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 を有する。そして、図 1 8 に表したように、嵌合部材 6 3 1 を取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 に当接させ、固定部材 1 7 3 を締めつけることにより、洗い場蓋 6 0 0 に対して正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができる（リブ 6 2 9 を基準として嵌合部材 6 3 1 を洗い場蓋 6 0 0 に固定する）。つまり、取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 は、切断面（ここでは切断面 L）に対応した位置に成形時に予め形成されており、その取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 に嵌合部材 6 3 1 を当接させる、すなわちリブ 6 2 9 を基準として嵌合部材 6 3 1 を洗い場蓋 6 0 0 に取り付けることにより、切断面（ここでは切断面 L）に対応した正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができる。

10

【 0 0 7 5 】

取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 は、浴室用床パン 5 0 0 の洗い場 6 2 0 の裏面に設けられている。そのため、嵌合部材 6 3 1 は、切断面 L の寸法誤差や表面状態などに影響を受けることはない。したがって、切断面 L の寸法誤差や表面状態などに影響を受けることなく、洗い場蓋 6 0 0 に対して正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができる。

【 0 0 7 6 】

一方、図 1 ～ 図 1 5 に関して説明した浴室用床パン 1 0 0 と同様に、本実施形態にかかる浴室用床パン 5 0 0 には、切断面（ここでは切断面 M）に対応した位置に予め位置決め部（位置決め手段）5 2 3 が形成されている。また、図 1 ～ 図 1 5 に関して説明したピース部材 1 4 1 と同様に、本実施形態のピース部材 1 6 1 は、浴室用床パン 5 0 0 との当接面に突起部 1 6 1 c を有する。そのため、図 1 ～ 図 1 5 に関して前述した効果と同様の効果を得ることができる。

20

【 0 0 7 7 】

さらに、本実施形態のピース部材 1 6 1 は、壁載置部 5 2 1 と同様に、下部に凹部 1 6 1 d を有する。そして、図 1 5 に表した矢印 K のようにして、洗い場蓋 6 0 0 に取り付けられた嵌合部材 6 3 1 をピース部材 1 6 1 の下部に設けられた凹部 1 6 1 d に嵌合させることにより、浴槽 2 0 0 とは反対側の洗い場蓋 6 0 0 の端部を浴室用床パン 5 0 0 に固定することができる。一方、浴槽 2 0 0 側の洗い場蓋 6 0 0 の端部は、図 1 5 に表したように、固定部材 1 7 3 により浴室用床パン 5 0 0 に固定される。このようにして、洗い場蓋 6 0 0 を切断面 L において切断し、浴室用床パン 5 0 0 を切断面 M において切断した場合であっても、洗い場蓋 6 0 0 は、全体として浴室用床パン 5 0 0 に固定される。これによれば、浴室用床パン 5 0 0 および洗い場蓋 6 0 0 を切断することにより、多種サイズのユニットバスに対応することができる。

30

【 0 0 7 8 】

なお、本実施形態では、前述したように、開口部 5 2 0 を上から覆うように、洗い場 6 2 0 を有する洗い場蓋 6 0 0 が設置される。そのため、浴室用床パン 5 0 0 を切断せずに設置する場合であっても、位置決め部 5 2 3 や接着溜まり部 5 2 5 は洗い場蓋 6 0 0 により覆い隠される。これによれば、不要となった位置決め部 5 2 3 や接着溜まり部 5 2 5 が洗い場 6 2 0 に存在しないため、汚れが溜まり難く、見栄えがより良い浴室を提供することができる。

40

【 0 0 7 9 】

また、切断後の浴室用床パン 5 0 0 の補強部 5 2 9 には、浴室用床パン 1 0 0 を補強する補強部材 1 7 1 が適宜設けられていてもよい。補強部材 1 7 1 は、例えばねじなどの固定部材 1 7 3 により固定されている。さらに、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 d と洗い場蓋 6 0 0 との間の間隙には、例えばシリコンなどの接着剤 1 7 5 が適宜充填され、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 d と洗い場蓋 6 0 0 とは液密に接着されている。

【 0 0 8 0 】

50

以上説明したように、本実施形態によれば、切断面に対応した位置に取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 が予め形成されている。その取付部 6 2 7 およびリブ 6 2 9 に嵌合部材 6 3 1 を当接させることにより、切断面に対応した正確な位置に嵌合部材 6 3 1 を取り付けることができる。一方、ピース部材 1 6 1 は、下部に凹部 1 6 1 d を有する。そして、嵌合部材 6 3 1 を凹部 1 6 1 d に嵌合させることにより、浴槽 2 0 0 とは反対側の洗い場蓋 6 0 0 の端部を浴室用床パン 5 0 0 に固定できる。さらに、浴室用床パン 5 0 0 およびピース部材 1 6 1 は、図 1 ~ 図 1 5 に関して前述した浴室用床パン 1 0 0 およびピース部材 1 4 1 とそれぞれ同様の構造を有する。そのため、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d を浴室用床パン 5 0 0 に対して正確な位置に設置することができる。これらによれば、浴室用床パン 5 0 0 および洗い場蓋 6 0 0 を切断することにより、多種サイズのユニットバスに対応することができ、壁パネル 1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d を浴室用床パン 5 0 0 に対して正確な位置に設置することができる。

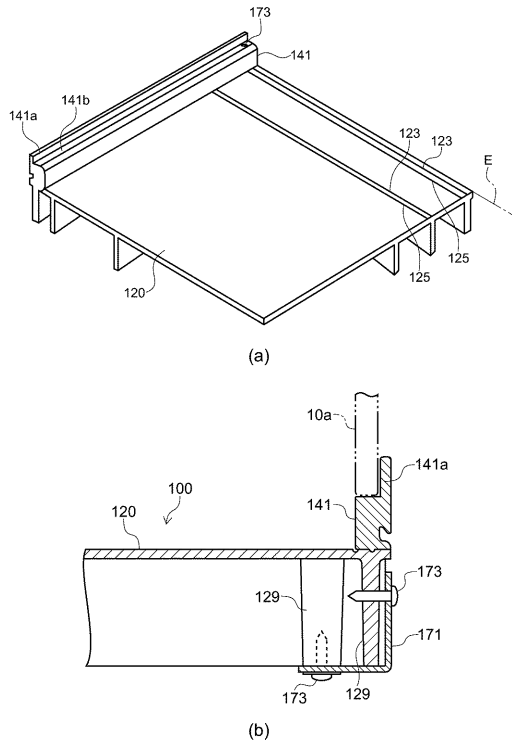
10

【符号の説明】**【 0 0 8 1 】**

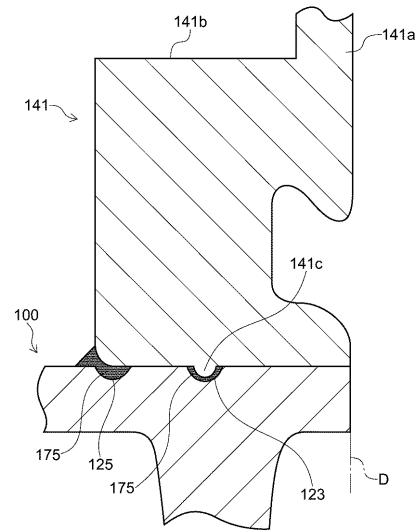
1 0 a、1 0 b、1 0 c、1 0 d 壁パネル、 2 0 a 建物壁、 2 0 e 建物床、
1 0 0 浴室用床パン、 1 1 0 浴槽載置部、 1 2 0 洗い場、 1 2 1 壁載置部、
1 2 1 a 側壁部、 1 2 1 b 底部、 1 2 3 位置決め部、 1 2 5 接着溜まり部、
1 2 7 1 組の溝部、 1 2 9 補強部、 1 4 1 ピース部材、 1 4 1 a 側壁部、 1
4 1 b 底部、 1 4 1 c 突起部、 1 4 1 d 凹部、 1 5 1 ピース部材、 1 5 1 a
側壁部、 1 5 1 b 底部、 1 6 1 ピース部材、 1 6 1 c 突起部、 1 6 1 d 凹
部、 1 7 1 補強部材、 1 7 3 固定部材、 1 7 5 接着剤、 1 7 8 補強部材、
1 7 9 支持部材、 1 7 9 a 第 1 の支持部材、 1 7 9 b 第 2 の支持部材、 1 7 9
c、1 7 9 d 爪部、 1 9 0 支持脚、 2 0 0 浴槽、 3 0 0 エプロン、 5 0 0
浴室用床パン、 5 2 0 開口部、 5 2 1 壁載置部、 5 2 1 d 凹部、 5 2 3 位置
決め部、 5 2 5 接着溜まり部、 5 2 9 補強部、 6 0 0 洗い場蓋、 6 2 0 洗い
場、 6 2 1 爪部、 6 2 7 取付部、 6 2 9 リブ、 6 3 1 嵌合部材

20

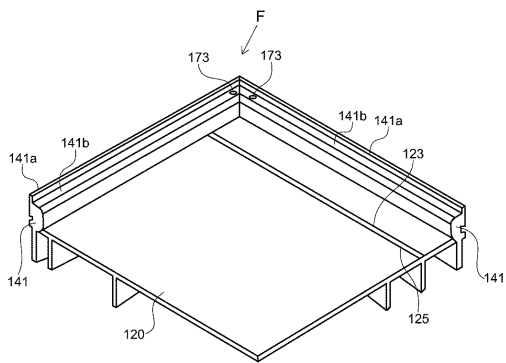
【図 5】



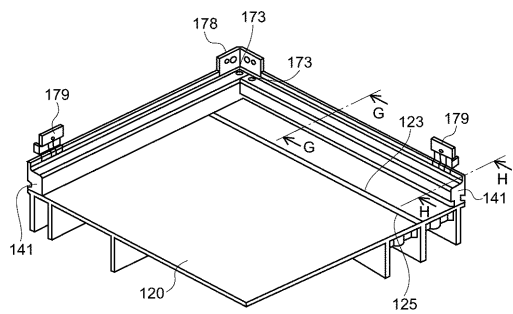
【図 6】



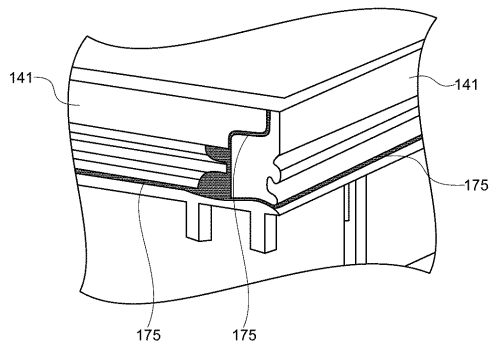
【図 7】



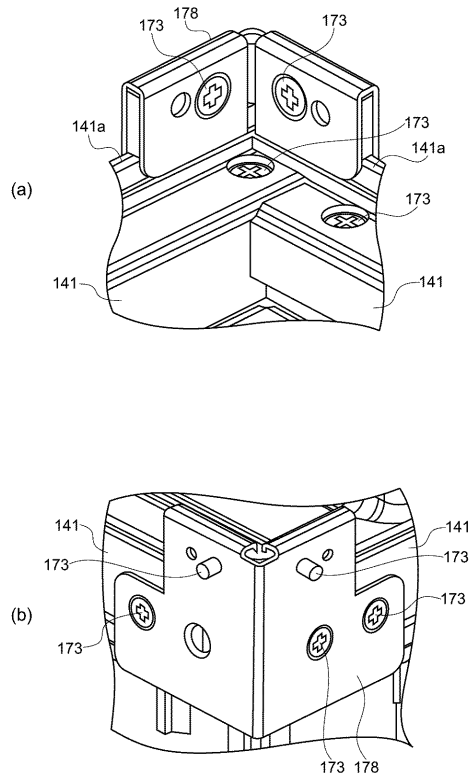
【図 9】



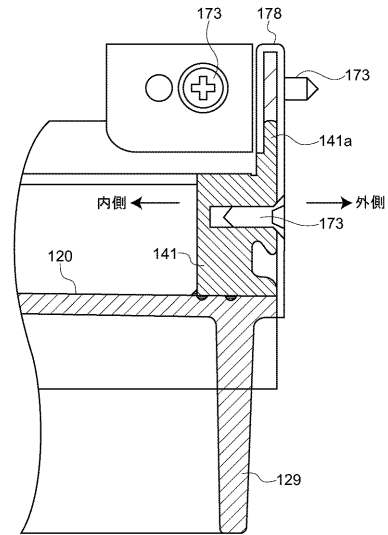
【図 8】



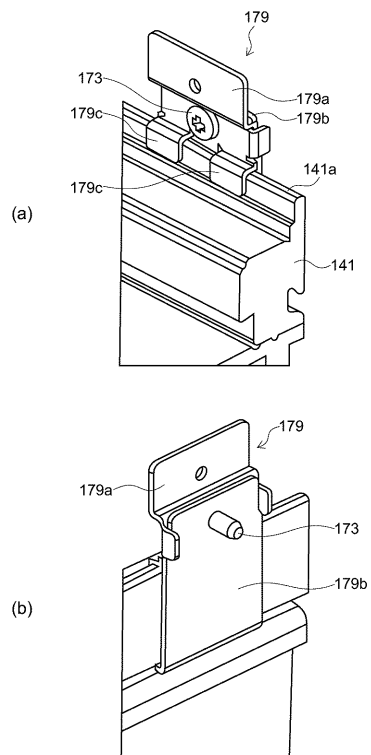
【図 10】



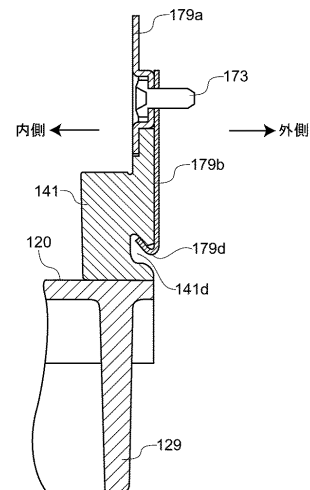
【図 11】



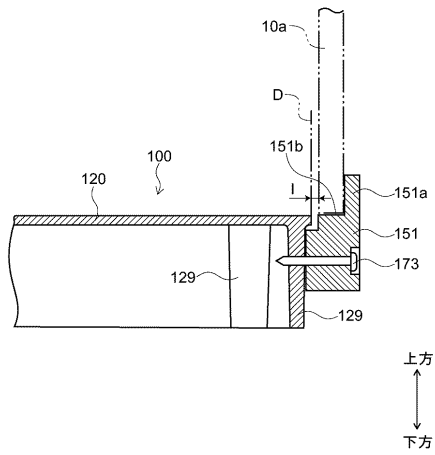
【図 12】



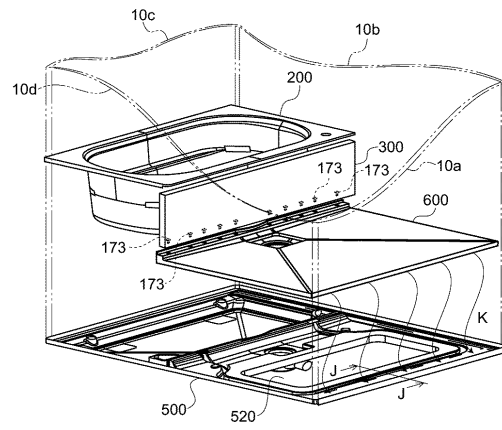
【図 13】



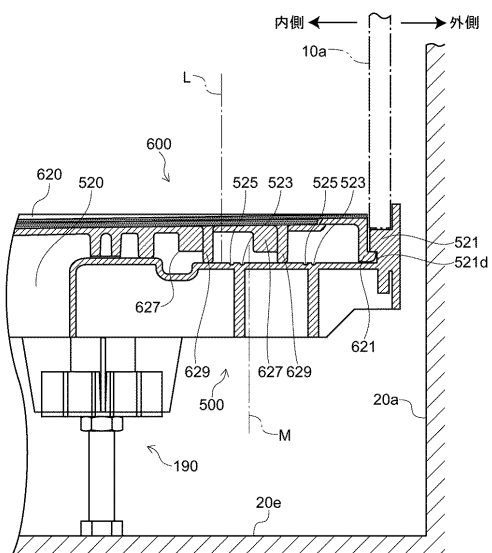
【 図 1 4 】



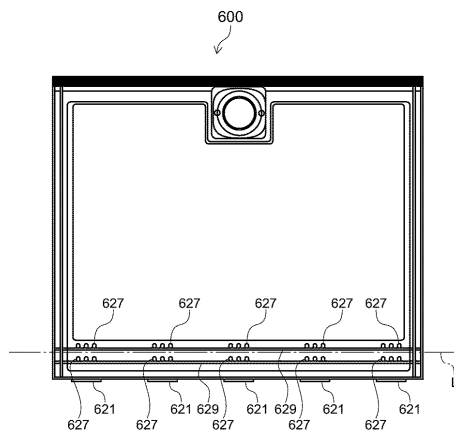
【 図 1 5 】



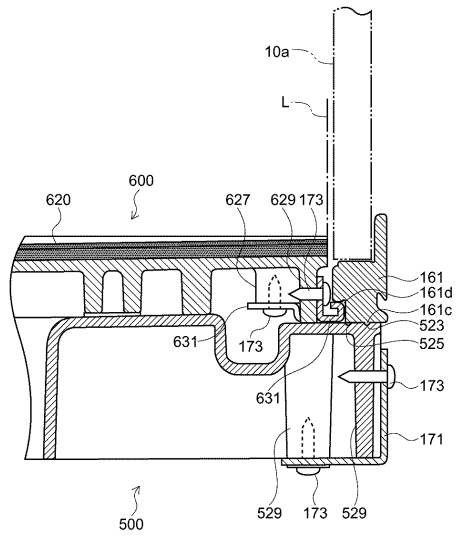
【 図 1 6 】



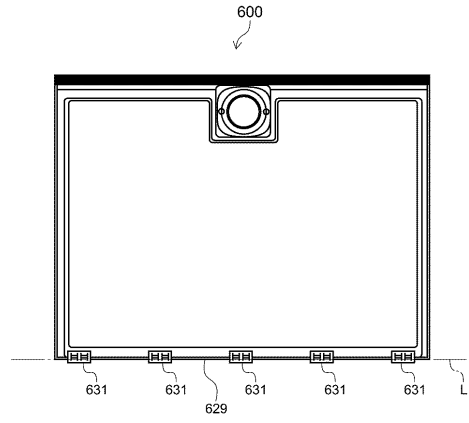
【圖 17】



【図 18】



【図 19】



フロントページの続き

(72)発明者 江幡 晶

千葉県佐倉市大作2丁目5番地1 TOTOバスクリエイト株式会社内

審査官 下井 功介

(56)参考文献 特開2007-315094(JP,A)

特開2007-191974(JP,A)

実開平04-015491(JP,U)

特開平11-029967(JP,A)

特開2006-299613(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E03C 1/12 - 1/33